

静岡医療センター麻酔科専門研修プログラム

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は、周術期の患者の生体管理を中心としながら、救急医療や集中治療における生体管理、種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において、患者の命を守り、安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで、国民の健康・福祉の増進に貢献する。

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは、人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え、生体の侵襲行為である手術が可能ないように管理する生体管理医学である。麻酔科専門医は、国民が安心して手術を受けられるように、手術中の麻酔管理のみならず、術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う、患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである。同時に、関連分野である集中治療や緩和医療、ペインクリニック、救急医療の分野でも、生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし、国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う。

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

① はじめに

専門研修基幹施設である独立行政法人国立病院機構静岡医療センター（以下、医療センター）、連携施設の静岡県立静岡がんセンター、順天堂大学医学部附属静岡病院の3施設で必要症例数を研修し、静岡県立総合病院、浜松医科大学医学部附属病院、伊東市民病院、沼津市立病院、国立病院機構東京医療センター、慶應義塾大学病院、杏林大学医学部付属病院、聖マリアンナ医科大学病院、北里大学病院、東京医科大学病院、湘南鎌倉総合病院、埼玉県立小児医療センターにおいて、専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修カリキュラムの到達目標を達成できる教育を提供し、十分な知識と技術を備えた麻酔科専門医を育成する。

麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に記されている。

② 特徴

このプログラムの特徴は急性期医療と地域医療の研修で、研修修了後は静岡県内の希望する施設で就業が可能となる。現在までに「ふじのくに麻酔科専門医研修プログラム」（多施設ローテーションと県内就業）の後期研修医の研修実績がある。若手医師の育成

に賛同した病院群によって構成されたプログラムで、学閥のない自由な雰囲気の中で我々は優秀な仲間を育成し、専門知識や技術を学びながら地の利を活かして自分の時間を有意義に過ごす「ライフ&ワーク・バランス」の実現を目指す。

③ プログラム参加者の要件

- 1) 前期研修（2年間）が終了した医師：原則卒後3年目
- 2) 既に後期研修を他院で始めているが、当プログラムに参加を希望する医師

④ 研修内容

研修のうち最低1年間は専門研修基幹施設の静岡医療センターにおいて、段階を踏んで、麻酔と全身管理、急変時対応を習得する。①麻酔管理症例は手術侵襲度が低い症例から高い症例へと習熟度に合わせて段階的に担当する。②周術期患者の観察と管理を重視し、術前～術中～術後を診ることで、侵襲が生体に及ぼす影響とその変化を知ることができ各種の病態への理解が深まる。研修では、まず一般麻酔で患者診察、評価、麻酔の考え方、手技などの基礎を学び、心大血管手術や緊急手術、集中治療研修で各種のショックや緊急事態の評価と初期対応の習得を目指す。

静岡がんセンターでは、日本最先端のがん手術の研修を行う。特に、各種の腹腔鏡下手術、分離肺換気症例を多数経験でき、多職種によるチーム医療が実践されている。

研修1年目、2年目は静岡医療センター、静岡がんセンターで基礎的知識、考え方、手技を習得する。習得すべき専門知識、技能は、麻酔科専攻医研修マニュアルに記載されている。技術面では、特に心肺蘇生、気道管理（困難気道管理を含む）、生体情報取得のためのカニューレ挿入（動脈穿刺、中心静脈穿刺、肺動脈カテーテルなど）、硬膜外穿刺、神経ブロックなどの麻酔手技の習得を目指す。

静岡医療センター内にシミュレーションセンターを有しており、各種セミナーを優先的に受講可能である。（心肺蘇生、困難気道管理（DAM）、外傷、中心静脈穿刺、緩和ケア研修会など）

3. 専門研修プログラムの運営方針

① 運営

- ・各病院群で、最低6ヶ月は研修を行う。
- ・研修内容・進行状況に配慮して、プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるように、ローテーションを構築する。

専門研修基幹施設

静岡医療センター

病院群 I（静岡県東部地域）

静岡医療センター、静岡県立静岡がんセンター、順天堂大学医学部附属静岡病院、伊東市民病院、沼津市立病院

病院群Ⅱ（静岡県中西部地域）

静岡県立総合病院、浜松医科大学医学部附属病院

病院群Ⅲ（静岡県外）

国立病院機構東京医療センター、慶應義塾大学病院、杏林大学医学部附属病院、
聖マリアンナ医科大学病院、北里大学病院、東京医科大学病院、湘南鎌倉総合病
院、埼玉県立小児医療センター

各施設の特徴

静岡医療センターでは、地域の急性期病院における一般的な手術および心臓血管外科
手術、循環器救急を含む集中治療および周術期管理

静岡県立がんセンターでは、日本の最先端のがん治療と各種手術

順天堂静岡病院では急性期病院における各種手術および脳神経外科手術、ペインクリニ
ック、緩和ケア

浜松医科大学病院では急性期病院における各種手術、集中治療、ペインクリニックを
経験できる。

4年目に静岡県外施設での研修を行う。

静岡医療センターは地域医療支援病院として、地域の多くの施設と連携している。
近隣施設からの紹介症例が多く年齢層も幅広いため、豊富な症例を体験できる。連携
施設の指導体制は次項3に示す。

研修実施計画例

ローテーション例

	1年目	2年目	3年目	4年目
A	医療センター	がんセンター	病院群Ⅰ and/or Ⅱ	自由選択
B	がんセンター	医療センター	病院群Ⅰ and/or Ⅱ	自由選択

上記のプログラム運営方針のもと研修状況を鑑み、また本人の希望も考慮して病院群
から施設を選択する。病院群Ⅰの3施設は20km圏内にあり、転居せずに研修を行える。

静岡医療センターの例

週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
7:45～			週間術 前症例 検討	ミーティ ング、抄 読会			
8:15～	ICUカンファランス						
午前	手術室	手術室	手術室	※	手術室	休み	休み
午後	手術室	手術室	手術室	※	手術室	休み	休み

16:00～		外科術 前カン ファラ ンス		心臓血 管外科 カンフ ァラン ス			
17:15～			症例検討 (1回/ 月)				
当直			当直				

② 勤務

- ・当直またはオンコール（平日、土日祝日）：回数は面談の上、決定する。
- ・当直翌日（※）は、業務内容の軽減（国立病院機構就業規則による）

③ 教育、カンファランス

・多職種カンファランス：特殊症例の場合、麻酔科・集中治療部医師、当該診療科、関連診療科、看護部門（手術室、ICU、病棟、医療安全管理師長など）、（必要に応じて臨床工学技士など）が参加しカンファランスを行っている。

- ・心臓血管外科：deathカンファランスを行っている。
- ・院内研修会：医療安全、院内感染対策、医療倫理は、職員の受講を必須としている。

教育研修委員会が中心となり年間計画を立て、学習の機会を提供している。

・麻酔科専攻医研修マニュアルに記載されているように、学術活動を推奨している。

年間計画を立て、学会、研究会への参加を推奨している：静岡医療センターの場合は旅費は院内規定で支給あり（国内：2回/年）

- ・図書室あり。麻酔科医室、医局は無線ランを整備している。

文献検索：「メディカルオンライン」 「医学中央雑誌web」 「Clinical Key」 「UpToDate」

④ 処遇

身分、給与、健康保険等の福利厚生制度、医師賠償責任保険、休日等、宿舍、学会費用など、原則として研修する施設の規定に従う。

4. 研修施設の指導体制

① 専門研修基幹施設

独立行政法人国立病院機構静岡医療センター病院（以下、静岡医療センター）

研修プログラム統括責任者：小澤章子

専門研修指導医：小澤章子（麻酔、集中治療）

今津康宏（麻酔、集中治療）

専門医：波里純子（麻酔、集中治療）

特徴：地域医療支援病院として循環器疾患を中心に急性期治療を行っている。集中治療のローテーション可能

② 専門研修連携施設(A)

静岡県立静岡がんセンター（以下、がんセンター）

研修実施責任者：玉井直

専門研修指導医：玉井直（麻酔、集中治療）

安藤憲興（麻酔、集中治療）

江間義朗（麻酔、ペインクリニック）

朝倉雄介（麻酔）

靱山幸紀（麻酔）

小石川亜矢（麻酔）

山下麻子（麻酔）

松井智子（麻酔）

井出利恵（麻酔）

麻酔科認定病院番号：972

特徴：全国第3位のがん手術件数を実施、原則としてがんの手術のみを行う。代表的な手術は以下のとおりである。

ダヴィンチ手術（直腸、前立腺・腎、胃、子宮、肺・縦郭）週10件以上

胸部外科（肺・縦郭・食道）週10件程度、

開頭術週2件程度

順天堂大学医学部附属静岡病院（以下、静岡病院）

研修プログラム統括責任者：尾前毅

専門研修指導医：尾前毅（心臓麻酔）

洪景都（麻酔一般、ペインクリニック）

久米村正輝（小児麻酔、区域麻酔）

櫻庭園子（麻酔一般、区域麻酔）

専門医：山崎翔（麻酔一般）

麻酔科認定病院番号：422

特徴：静岡県東部で3次救急を担う救急救命センター、総合周産期母子医療センター、新生児センター、脳卒中センター、がん治療センターを持つ地域の高度医療を担う中

核病院です。また、静岡県東部ドクターヘリ運航拠点病院であり、周産期救急症例を含む多彩な緊急手術症例が豊富です。

静岡県立総合病院

研修実施責任者：横山順一郎（麻酔）
専門研修指導医：横山順一郎（麻酔）
青嶋由紀江（麻酔）
渥美和之（麻酔）
藤井俊輔（麻酔）
森本恵理子（麻酔、集中治療）
柳田京子（麻酔）
高良麻紀子（麻酔）
航尚子（麻酔）
青木善考（麻酔、集中治療）

麻酔科認定病院番号：274

特徴：県内で中心的な役割を果たす手術施設

浜松医科大学医学部附属病院（以下、浜松医科大学）

研修プログラム統括責任者：中島芳樹
専門研修指導医：中島芳樹（麻酔、小児麻酔、産科麻酔、心臓血管麻酔）
加藤孝澄（麻酔、心臓血管麻酔、ペインクリニック）
土井松幸（麻酔、集中治療）
五十嵐寛（麻酔、医学教育、ペインクリニック）
栗田忠代士（麻酔、胸部外科麻酔、マネジメント）
鈴木明（麻酔、医療安全）
小幡由佳子（麻酔、集中治療）
秋永智永子（麻酔、産科麻酔、医療安全）
牧野 洋（麻酔、脳神経麻酔）
御室総一郎（麻酔、集中治療）
谷口美づき（麻酔、産科麻酔、ペインクリニック）
八木原正浩（麻酔、小児麻酔）
吉田香織（麻酔、ペインクリニック）
青木善孝（麻酔、集中治療）
内崎紗貴子（麻酔、産科麻酔）
木村哲朗（麻酔、ペインクリニック）
川島信吾（麻酔、心臓血管麻酔）

加藤弘美（麻酔，集中治療）
成瀬智（麻酔，産科麻酔）
小林賢輔（麻酔，集中治療）
植田広（麻酔，集中治療）
鈴木興太（麻酔，ペインクリニック）
朝羽瞳（麻酔，産科麻酔）
鈴木祐二（麻酔，集中治療）
専門医：大嶋進史（麻酔，集中治療）
西本久子（麻酔，集中治療）
川島若菜（麻酔）
森下佳穂（麻酔）

麻酔科認定病院番号：158

特徴：豊富な指導医数の誇る大学病院を中心に、手厚い指導のもと安心して研修ができます。ペインクリニック、集中治療、心臓血管麻酔などのサブスペシャリティーの研修施設で高難度の麻酔・全身管理および術後疼痛管理、麻酔科医が中心の集中治療部での重症患者管理、ペインクリニック、緩和医療、小児麻酔、産科麻酔・無痛分娩の研修ができます。麻酔を中心にバランスよく効率的に関連分野の専門医を取得することができ、医療安全、シミュレーション教育を専門とする麻酔科医師も在籍しているため研修中に学ぶ機会も多いです。

研修後半からは、麻酔科領域の大学院に進学し専門医研修をしながら研究することも可能です。

東京医科大学病院

研修プログラム統括責任者：内野博之

専門研修指導医：内野博之（麻酔，ペインクリニック，集中治療）

大瀬戸清茂（ペインクリニック，麻酔）

中澤弘一（麻酔，集中治療）

濱田宏（麻酔，緩和医療，ペインクリニック，集中治療）

荻原幸彦（麻酔，集中治療，ペインクリニック）

福井秀公（ペインクリニック，麻酔）

柿沼孝泰（麻酔，心臓麻酔，産科麻酔）

関根秀介（集中治療，麻酔）

沖田綾乃（麻酔）

石田裕介（麻酔，集中治療）

齊木巖（麻酔）

崔英姫（麻酔）

鈴木直樹 (麻酔, 小児麻酔)
齊木梨香子 (麻酔)
倉地聡子 (麻酔, 緩和医療)
鎌田早紀 (麻酔)
小林賢礼 (麻酔)
長倉知輝 (麻酔)
宮崎夏未 (麻酔, 心臓麻酔)

麻酔科認定病院番号 : 28

特徴 : 麻酔、ペインクリニック、集中治療、緩和医療の領域を幅広く学ぶ事が出来る。

医療法人沖縄徳洲会 湘南鎌倉総合病院

研修実施責任者 : 佐藤浩三

専門研修指導医 : 佐藤浩三

佐藤ゆみ子
相野田桂子
園田清次郎
石川亜希子
太田隆嗣
今西晶子
藤原康嗣

麻酔科認定病院番号 : 1436

特徴 : 1. 豊富な手術件数とバランスのとれた手術内容
2. 低侵襲カテーテル手術への積極的関与 (TAVI, Mitral Clip, 左心耳閉鎖)
3. 緊急手術が豊富で術中管理から術後 ICU 管理まで連続して経験できる

埼玉県立小児医療センター

研修実施責任者 : 蔵谷紀文

専門研修指導医 : 蔵谷紀文 (麻酔・小児麻酔)

濱屋和泉 (麻酔・小児麻酔)
佐々木麻美子 (麻酔・小児麻酔)
大橋智 (麻酔・小児麻酔)
古賀洋安 (麻酔・小児麻酔)
石田佐知 (麻酔・小児麻酔)
駒崎真矢 (麻酔・小児麻酔)
河邊千佳 (麻酔・小児麻酔)

麻酔科認定病院番号：399

特徴：地域における小児医療の中心施設

③ 専門研修連携施設(B)

伊東市民病院

研修実施責任者：富樫秀彰

専門研修指導医：富樫秀彰（麻酔、ペインクリニック）

飯田武彦（麻酔）

麻酔科認定病院番号：991

特徴：伊東地区唯一の2次救急医療機関として、様々な疾患を受け入れている。また静岡県で研修をしながらも、週末は都市部で新しい知識に触れることができる。

東京医療センター

研修プログラム統括責任者：吉川保

専門研修指導医：小林佳郎（麻酔）

吉川保（麻酔・ペインクリニック）

山崎治幸（麻酔・集中治療）

櫻井裕教（麻酔・集中治療）

森庸介（麻酔・集中治療・心臓麻酔）

安村里絵（麻酔・集中治療・心臓麻酔）

杉浦孝広（麻酔・心臓麻酔）

加藤奈々子（麻酔・産科麻酔）

専門医：茂田宏恵（麻酔）

麻酔科認定病院番号：221

特徴：東京医療センターは旧国立東京第二病院といわれた昭和43年から臨床研修指定病院に指定され、伝統的に医療従事者の教育研修に熱心な施設である。近年は地域との結びつきの強い急性期病院として、救命救急センター・地域がん診療連携拠点病院・東京都災害医療拠点病院・地域医療支援病院などの指定を受けるとともに、高度先進医療にも取り組んでいる。そして当センターの理念『患者の皆様とともに健康を考える医療の実践』を実行すべく、技術とシステムの改修に加え、診療・教育・研究を通して医療の質の向上を目指している病院である。

麻酔科としても、2016年から麻酔科術前外来を開設、2020年からAPSチームが発足し、術前から術後まで周術期チームの核となるべく様々な取り組みを行っている。専門医以上のスタッフが多く、若手から中堅そしてベテランまでがバランス良く存在していることも特徴のひとつである。どの年代層も常に新しい事を取り入れ進化する努力を

怠らないようにしている。また医局の枠にとらわれず、国内外で活躍する当院麻酔科研修を終えた多くの麻酔科医と交流する機会があるのも魅力の一つである。

慶應義塾大学病院

研修プログラム統括責任者：森崎浩

専門研修指導医：森崎浩（麻酔、集中治療）

橋口さおり（麻酔、緩和医療）

小杉志都子（麻酔、ペインクリニック）

三笠裕美（麻酔）

山田高成（麻酔）

長田大雅（麻酔、集中治療）

大橋夕樹（麻酔、産科麻酔）

加藤純悟（心臓麻酔）

御園生与志（麻酔）

五十嵐達（麻酔）

井上敬（麻酔）

壽原朋宏（麻酔、集中治療）

増田祐也（麻酔）

若泉謙太（麻酔、ペインクリニック）

伊原奈帆（麻酔、緩和医療）

阪本浩平（麻酔）

寅丸智子（麻酔）

瀬上和貴（麻酔）

専門医：星野麗子（麻酔、ペインクリニック）

平畑里枝子（麻酔）

若宮里恵（麻酔、小児麻酔）

鈴木悠太（麻酔、集中治療）

本田あやか（麻酔、ペインクリニック）

生駒祐介（麻酔、集中治療）

高井琴子（麻酔）

高岡早紀（麻酔、ペインクリニック）

麻酔科認定病院番号：3

特徴：教室開設より 60 年を超える歴史があり、診療、教育、研究に長けた施設です。現在の麻酔科診療は手術麻酔のみならず、集中治療、ペインクリニック、疼痛緩和治療と多岐にわたっております。また呼吸ケアチームの一員として、院内の人工呼吸器管理にもあたり、Rapid Response Team でも主導的な役割を担っています。大学病院のため

心臓外科・胸部（呼吸器・食道）外科・小児外科や脳神経外科など必要経験症例が豊富にあり、十分な経験が可能です。研修医勉強会、英語論文抄読会、教科書輪読会、学会発表、論文執筆などの機会もあります。

杏林大学医学部附属病院

研修実施責任者：萬知子

専門研修指導医：萬知子（手術麻酔全般、医療安全）

鎮西美栄子（緩和医療）

徳嶺讓芳（手術麻酔全般、医療安全）

森山潔（集中治療、医療安全）

関博志（周術期外来、手術麻酔全般）

中澤春政（心臓麻酔、術後鎮痛）

鵜澤康二（手術麻酔全般）

小谷 真理子（集中治療）

小澤 真紀（手術麻酔全般）

田口敦子（小児麻酔）

神山智幾（集中治療）

本保晃（周術期管理・産科麻酔）

箱根雅子（小児麻酔・産科麻酔）

専門医：竹内徳子（手術麻酔全般）

安藤直朗（手術麻酔全般）

朽名佳代子（手術麻酔全般）

辻大介（心臓麻酔）

田渕沙織（小児麻酔）

和田望（手術麻酔全般）

麻酔科認定病院番号：147

特徴：年間 7,000 件麻酔科管理症例があり、麻酔科専門医として必要な手術症例を偏りなく経験できる。ロボット補助下手術や循環器疾患の血管内治療など先進医療の麻酔管理を経験することができる。

聖マリアンナ医科大学病院

研修プログラム統括責任者：井上莊一郎

専門研修指導医：井上莊一郎（術後鎮痛,ペインクリニック）

坂本三樹（心臓血管,小児,周産期）

田澤利治（ペインクリニック,緩和）

横塚牧人（臨床麻酔）

永田美和（臨床麻酔）
中山知沙香（臨床麻酔）
虻川由紀（臨床麻酔,周産期,心臓血管麻酔）

専門医：天野江里子（臨床麻酔）

麻酔科認定病院番号：100

特徴：豊富な症例数，ペイン，集中治療のローテーション可能

北里大学病院

プログラム責任者：岡本浩嗣

専門研修指導医：岡本浩嗣（心臓血管麻酔/小児麻酔）

奥富俊之（麻酔、産科麻酔）

新井正康（麻酔、集中治療、医療安全）

金井昭文（ペインクリニック、緩和医療）

竹浪民江（区域麻酔）

黒岩政之（麻酔、集中治療、呼吸療法、急変対応）

安藤寿恵（心臓血管麻酔）

松田弘美（小児麻酔）

杉村憲亮（心臓血管麻酔、集中治療）

安達健（麻酔、集中治療、呼吸療法、急変対応）

大塚智久（麻酔、集中治療、呼吸療法、急変対応）

林 経人（ペインクリニック、緩和医療）

専門医：日向俊輔（産科麻酔）

吉野和久（麻酔、集中治療、呼吸療法、急変対応）

西澤義之（麻酔、集中治療、呼吸療法、急変対応）

阪井茉有子（麻酔、集中治療、呼吸療法、急変対応）

藤田那恵（産科麻酔）

関田昭彦（心臓血管麻酔、集中治療）

山下敦（小児麻酔、心臓血管麻酔、集中治療）

伊藤諭子（麻酔、胸部外科麻酔）

箸方紘子（麻酔）

安達真理子（産科麻酔）

堀江彩織（ペインクリニック、緩和医療）

高橋祐一朗（麻酔）

荒将智（ペインクリニック、緩和医療）

麻酔科認定病院番号：78

特徴：一週間の業務で、術前外来～手術麻酔～術後集中治療管理という一連の周術期管理をすることで、「患者目線の麻酔管理」「予後を意識した術中管理」を研修する。加えて、周産期全般に寄与する産科麻酔（無痛分娩管理、帝王切開、産科的処置）での3か月研修、ペインクリニック、緩和医療といった病棟併診業務、病棟発症の敗血症など院内重症者の所領と救済を目的とした活動であるRapid Response Teamの研修を行う。また近年は、他科より先に大学病院勤務医のワークライフ・バランス思考のシフトを取り入れてモデルケースとなっている。

沼津市立病院

研修実施責任者：稲村 実穂子

専門研修指導医：稲村 実穂子（麻酔）

麻酔科認定病院番号：54

特徴：当院は静岡県東部地域の中核病院として、ドクターヘリポート・救急ワークステーションを持つ三次救命救急センターを運営し、専門医療および救急診療に携わっている。

24の診療科と387床の入院病床（うち地域包括ケア病棟50床）を有しており、心臓外科・呼吸器外科・小児外科・産科の症例も多く、ダヴィンチを使用した最先端手術や0歳児からの腹腔鏡手術も行っている。

特殊麻酔の症例数も十分に経験でき、豊富な症例の経験ができる施設となっている。

5. 募集定員

2名

（*募集定員は、4年間の経験必要症例数が賄える人数とする。複数のプログラムに入っている施設は、各々のプログラムに症例数を重複計上しない）

6. 専攻医の採用と問い合わせ先

① 採用方法

専攻医に応募する者は、日本専門医機構に定められた方法により、期限までに（2019年9月ごろを予定）志望の研修プログラムに応募する。

② 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは、静岡医療センター麻酔科専門研修プログラム website, 電話, e-mail, 郵送のいずれの方法でも可能である。

静岡医療センター 麻酔・集中治療科部長 小澤章子
静岡県駿東郡清水町長沢762-1

TEL 055-975-2000

E-mail : ozawa.akiko.hz@mail.hosp.go.jp

Website : <https://shizuoka-mc.hosp.go.jp/>

7. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

(ア) 専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は、4年間の専門研修を修了することで、安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し、国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる。具体的には、専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる。

- 1) 十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技能
- 2) 刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力、問題解決能力
- 3) 医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度、習慣
- 4) 常に進歩する医療・医学に則して、生涯を通じて研鑽を継続する向上心

② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために、研修期間中に別途資料「麻酔科専攻医研修マニュアル」に定められた専門知識、専門技能、学問的姿勢、医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する。

③ 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識、技能、態度を備えるために、別途資料「麻酔科専攻医研修マニュアル」に定められた経験すべき疾患・病態、経験すべき診療・検査、経験すべき麻酔症例、学術活動の経験目標を達成する。

このうちの経験症例に関して、原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが、地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り、研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち、専門研修指導医が指導した症例に限っては、専門研修の経験症例数として数えることができる。

8. 専門研修方法

別途資料「麻酔科専攻医研修マニュアル」に定められた1) 臨床現場での学習、2) 臨床現場を離れた学習、3) 自己学習により、専門医としてふさわしい水準の知識、技能、態度を修得する。

9. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って、下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する。

専門研修1年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し、ASA 1～2度の患者の通常の定時手術に対して、指導医の指導のもと、安全に周術期管理を行うことができる。

専門研修2年目

1年目で修得した技能、知識をさらに発展させ、全身状態の悪いASA 3度の患者の周術期管理やASA 1～2度の緊急手術の周術期管理を、指導医の指導のもと、安全に行うことができる。

専門研修3年目

心臓外科手術、胸部外科手術、脳神経外科手術、帝王切開手術、小児手術などを経験し、さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと、安全に行うことができる。また、ペインクリニック、集中治療、救急医療など関連領域の臨床に携わり、知識・技能を修得する。

専門研修4年目

3年目の経験をさらに発展させ、さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる。基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが、難易度の高い症例、緊急時などは適切に上級医をコールして、患者の安全を守ることができる。

10. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

- 研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に、**専攻医研修実績記録フォーマット**を用いて自らの研修実績を記録する。研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される。
- 専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録に基づき、専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し、**研修実績および到達度評価表**、**指導記録フォーマット**によるフィードバックを行う。研修プログラム管理委員会は、各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し、専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる。

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において、専門研修4年次の最終月に、**専攻医研修実績フォーマット**、**研修実績および到達度評価表**、**指導記録フォーマット**をもとに、研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて、各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識、②専門技能、③医師として備えるべき学問的姿勢、倫理性、社会性、適性等を修得したかを総合的に評価し、専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する。

11. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標、経験すべき症例数を達成し、知識、技能、態度が専門医にふさわしい水準にあるかが修了要件である。各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において、研修期間中に行われた形成的評価、総括的評価を元に修了判定が行われる。

12. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は、毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い、研修プログラム管理委員会に提出する。評価を行ったことで、専攻医が不利益を被らないように、研修プログラム統括責任者は、専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある。

研修プログラム統括管理者は、この評価に基づいて、すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために、自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する。

13. 専門研修の休止・中断、研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき、研修プログラム管理委員会が判断を行う。
- 出産あるいは疾病などに伴う6ヶ月以内の休止は1回までは研修期間に含まれる。
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は、連続して2年迄休止を認めることとする。休止期間は研修期間に含まれない。研修プログラムの休止回数に制限はなく、休止期間が連続して2年を越えていなければ、それまでの研修期間はすべて認められ、通算して4年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす。
- 2年を越えて研修プログラムを休止した場合は、それまでの研修期間は認められない。ただし、地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については、卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし2年以上の休止を認める。

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は、研修プログラム管理委員会を通じて日本専

門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする。

- 専門研修の中断については、専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合、研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる。

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は、やむを得ない場合、研修期間中に研修プログラムを移動することができる。その際は移動元、移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて、日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある。麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める。

14. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には、地域医療の中核病院としての順天堂静岡病院、浜松医科大学病院、静岡など幅広い連携施設が入っている。医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し、適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため、専攻医は、大病院だけでなく、地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い、当該地域における麻酔診療のニーズを理解する。